



2020年度 第2四半期 決算説明資料

株式会社 ジャパンディスプレイ

2020年11月13日

2020年度 第2四半期 サマリ

第2四半期累計期間（上期）

- 競争激化及びコロナ影響により、売上高は前年同期比16%減少
- 売上高減少も、構造改革効果及びその他費用削減により、損失は大幅縮小
 - ・ 売上総利益： 黒字化
 - ・ 営業損失： 253億円改善
 - ・ 四半期純損失： 679億円改善（構造改革費用の減少）
 - ・ EBITDA： 221億円改善

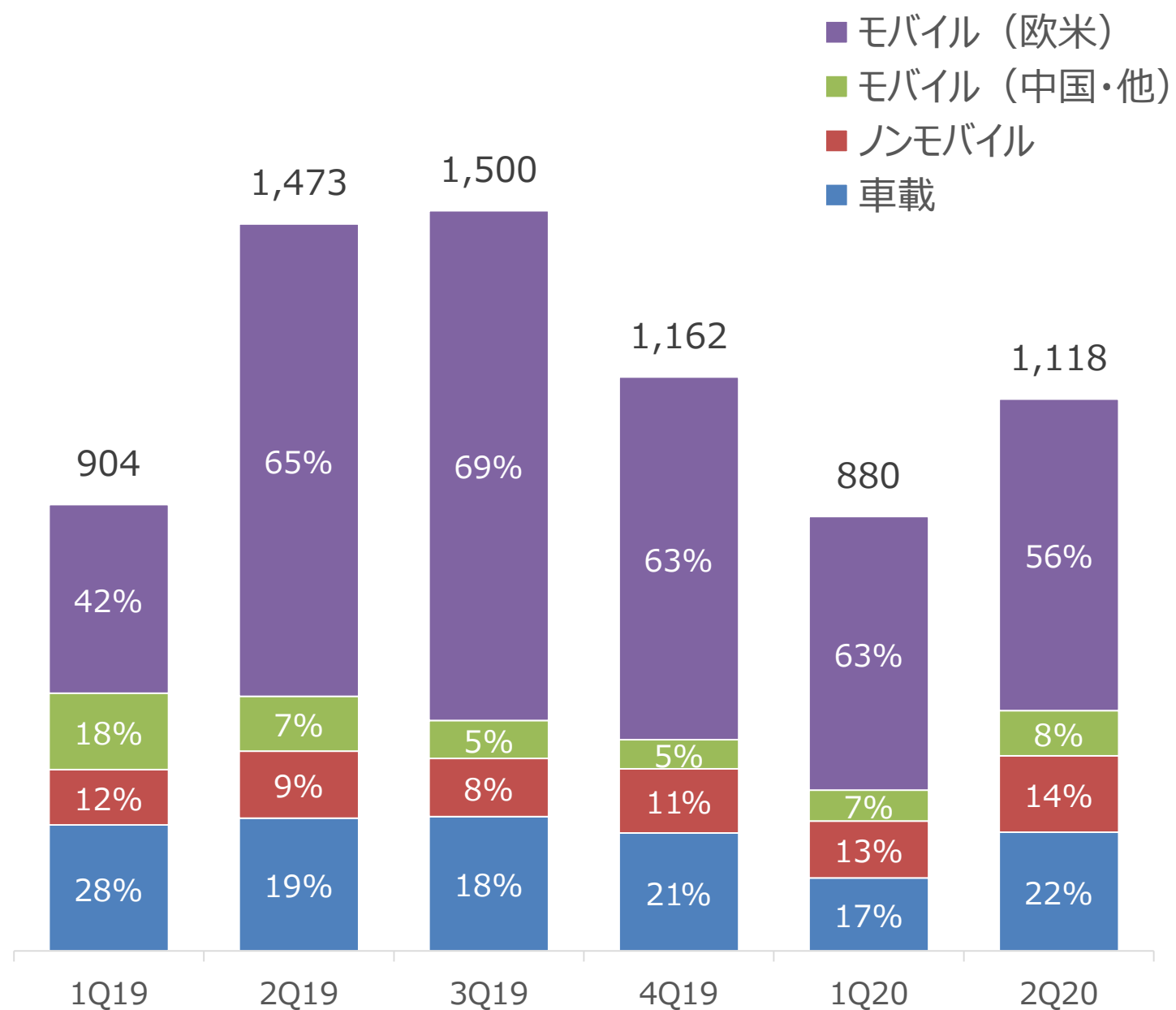
第2四半期会計期間（2Q）

- 9月10日発表の予想範囲内に着地
 - ・ スマホ向け売上高が伸び悩み、下限近くに着地
- 車載ディスプレイ需要が急回復。OLED出荷増加
- 上期の前年比同様、売上高減少も損失は縮小
 - ・ EBITDAは黒字化
 - ・ 特別損失131億円計上：OLED設備減損、白山工場譲渡に係る費用

(億円)

	19年度 上期	20年度 上期	19年度 2Q	20年度 2Q	20年度 2Q (9/10予)	20年度 1Q
売上高	2,378	1,998	1,473	1,118	1,100-1,200	880
売上総利益	▲ 157	56	11	46	-	10
営業利益	▲ 352	▲ 99	▲ 81	▲ 29	▲ 30-0	▲ 70
親会社に帰属する当期純利益	▲ 1,042	▲ 363	▲ 252	▲ 200	-	▲ 163
EBITDA	▲ 243	▲ 22	▲ 41	10	-	▲ 32

四半期売上高推移



分野別販売状況

■ モバイル分野 (欧米631億円、中国・他91億円、前年同期比 32%減)

顧客のOLED採用拡大による需要減により軟調。下期はパネル販売が増加も、単価の高いモジュール販売の減少により上期比減収見通し

■ 車載分野 (240億円、前年同期比 11%減)

自動車生産の大幅調整に伴う1Qの急減から2Qは急回復。下期も回復基調も、欧米等でのコロナ感染再拡大は懸念

■ ノンモバイル分野 (155億円、前年同期比 14%増)

コロナ影響による後工程生産の回復遅れは2Q中に解消。デジタルカメラ向け販売の減少を、VR、ノートPC向け販売増が相殺。2QからOLED製品も増加

連結損益計算書

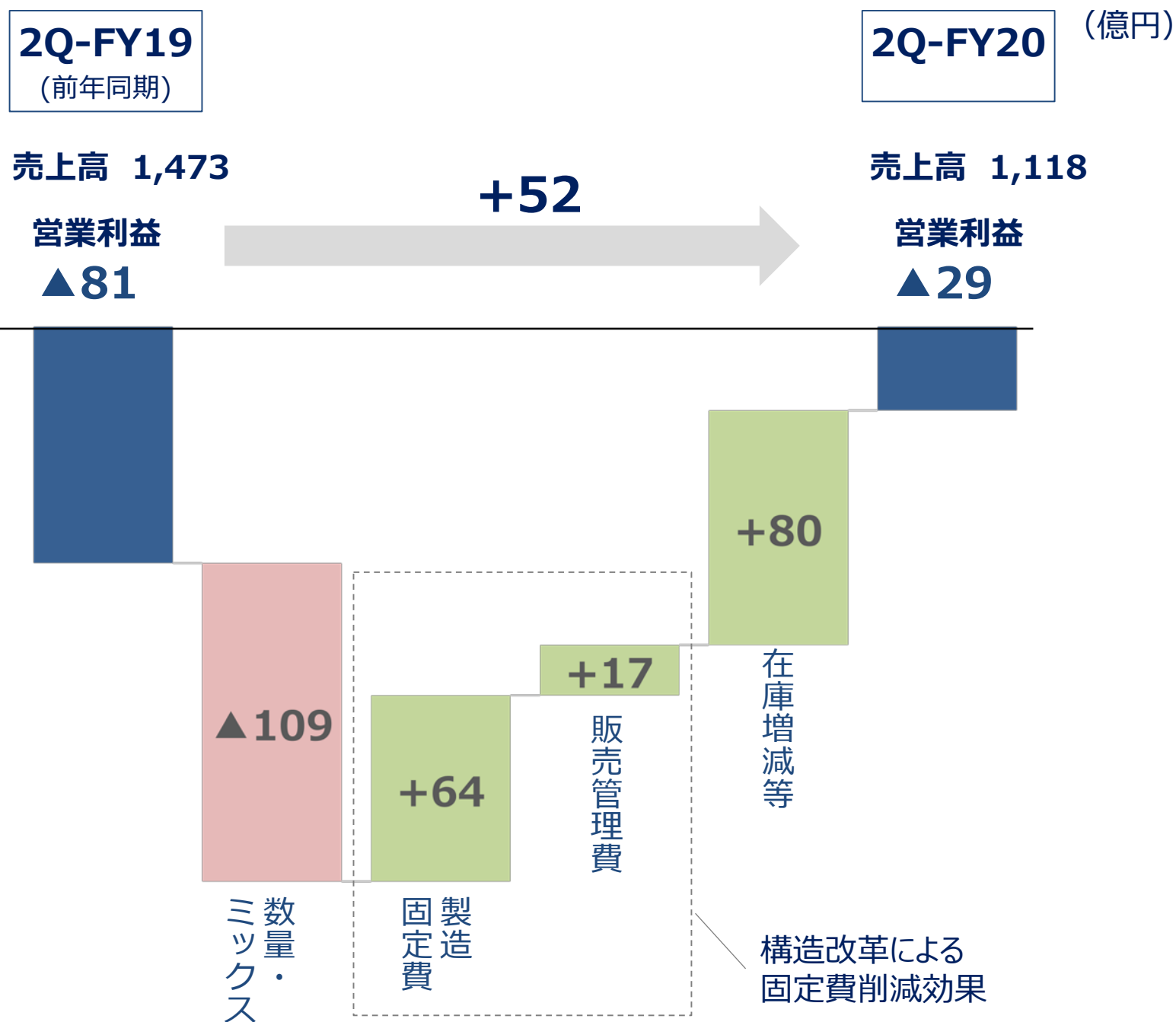
(億円)

	1H-FY19	1H-FY20	前年同期比	2Q-FY19	2Q-FY20	前年同期比	1Q-FY20	前四半期比
売上高	2,378	1,998	▲380	1,473	1,118	▲355	880	+238
売上原価	2,534	1,941	▲593	1,462	1,072	▲390	870	+202
売上総利益	▲157	56	+213	11	46	+35	10	+36
販売費及び一般管理費	195	155	▲40	92	75	▲17	80	▲5
営業利益	▲352	▲99	+253	▲81	▲29	+52	▲70	+41
営業外損益 (▲は損失)	▲82	▲53	+29	▲40	▲35	+5	▲18	▲17
経常利益	▲433	▲152	+281	▲121	▲64	+57	▲88	+24
特別損益 (▲は損失)	▲597	▲203	+394	▲120	▲131	▲11	▲72	▲59
税引前当期純利益	▲1,030	▲355	+675	▲241	▲195	+46	▲160	▲35
親会社株主に帰属する当期純利益	▲1,042	▲363	+679	▲252	▲200	+52	▲163	▲37
EBITDA	▲243	▲22	+221	▲41	10	+51	▲32	+42
平均為替レート (円/米ドル)	108.6	106.9		107.4	106.2		107.6	
期末為替レート (円/米ドル)	107.9	105.8		107.9	105.8		107.7	

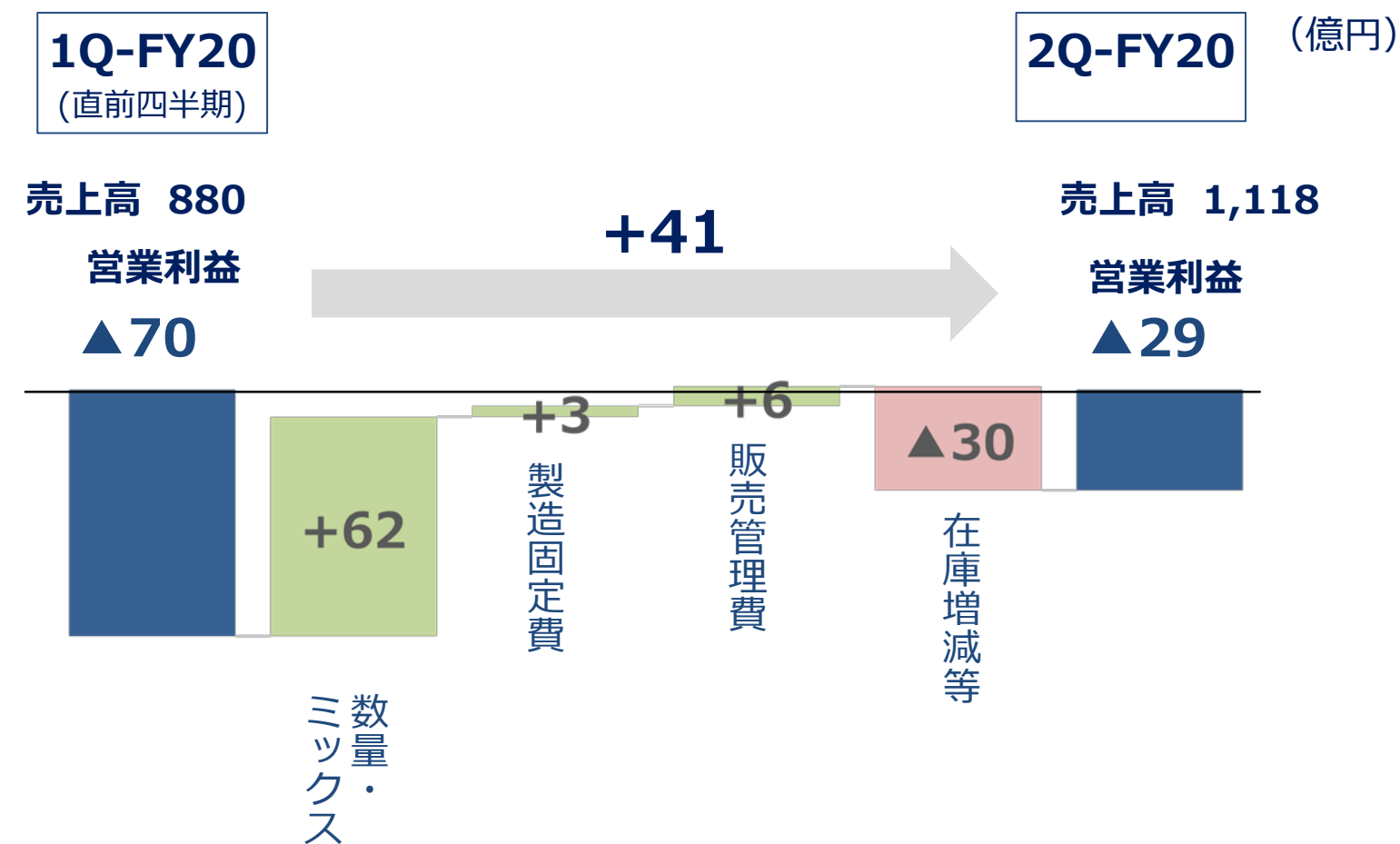
	1H-FY19	1H-FY20	2Q-FY19	2Q-FY20
持分法投資損失 (営業外費用)	42億円	－億円	21億円	－億円
事業構造改善費用及び減損損失 (特別損失)	597億円	210億円	120億円	131億円

連結営業利益 増減要因

前年同四半期（2Q-FY19）比



直前四半期（1Q-FY20）比



2020年度の見通し

損失縮小も、赤字が継続しており、黒字転換に向けた更なる取り組みが必要不可欠

第3四半期予想

	(億円)			
	19年度 3Q (累計)	20年度 3Q (累計)	19年度 3Q	20年度 3Q
売上高	3,878	2,698	1,500	700
営業利益	▲ 326	▲ 199	25	▲ 100

設備投資・研究開発

	FY19 (実)	FY20 (9/10予)	FY20 (今回予)
設備投資額	161	128	115
減価償却費	207	168	150
研究開発費	103	90	86

20年度の見通しと対策

売上高： 3,300～3,500億円 (対前年度▲34.5～▲30.6%)

- ・ 9/10予想は▲25～▲15%
- ・ 下期はスマートフォン向けの単価の低いパネル製品が増加も、単価の高いモジュール製品は大幅に減少
- ・ 車載、ノンモバイル分野は上期比増加

営業利益： 前年度比で損失縮小見込みも、赤字が継続しており対応が必須。更なる経費削減に取り組むとともに、新商品の開発・新規市場参入による売上増を図る

資金：

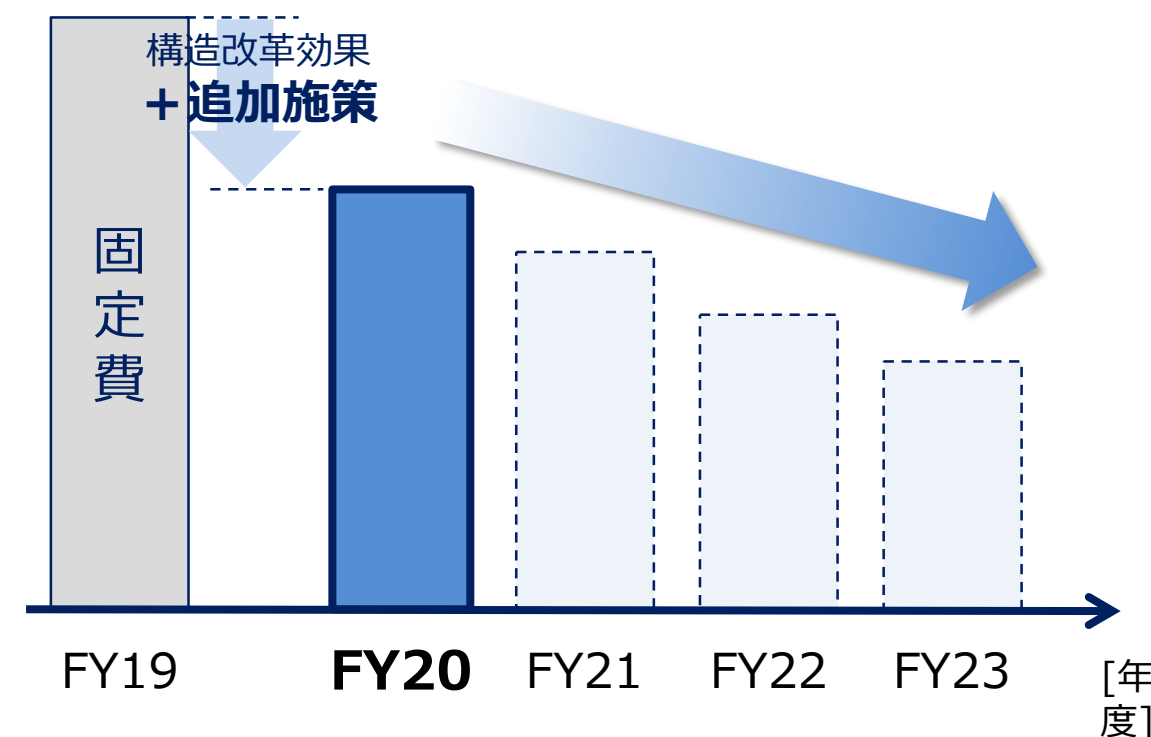
- ・ 当社顧客からの**前受金** (約7億ドル) は10/2付で**弁済完了**
- ・ いちごトラストに割当てた**新株予約権** (最大**554億円**) は今後必要に応じて活用予定

コスト競争力の強化

徹底的なコスト削減・さらなる生産性の改善により、低コストかつ高収益な事業構造に変革する

■ 固定費の削減：目標FY20年間 **280億円** 以上（FY19比）

- **動力費**：エネルギー使用効率改善、契約最適化
- **保守費**：設備メンテ効率改善、契約見直し
- **製造他**：生産性改善によるスループット最大化、アセット適正化
- **本社他**：販管費・間接経費の最小化、共通業務の効率化



■ 変動費率の改善効果：目標FY20年間 **3ポイント**以上（変動費年間 **100億円** 以上（FY19比））

- **材料費**：コスト競争力視点でのサプライチェーンの見直し、部材共通化・材料能率向上
- **外注加工費**：業務/契約見直し、工数削減
- **仕損費**：拠点横断的な**仕損費半減プロジェクト**活動の加速
(歩留ロス)

新収益源の創出に向けたR&D活動

バックプレーンコア技術をベースに世の中にない新しい付加価値を創造

New Display

リアリティの徹底追求



従来LCD



新開発偏光レーザー
バックライトLCD

BT2020規格
98%対応^(*1)
8Kディスプレイ

(*1)自然界に存在する物体
の色域を98%再現

国立研究開発法人科学技術振興機構
(JST) 産学共同実用化開発事業
(NexTEP) の支援を得て開発しました。

ウィズコロナ時代のハイジエニック&インタラクティブ

ホバータッチ
+
透明ディスプレイ



New UX / New Sensor

常時指紋認証可能なタッチディスプレイ



多指検出



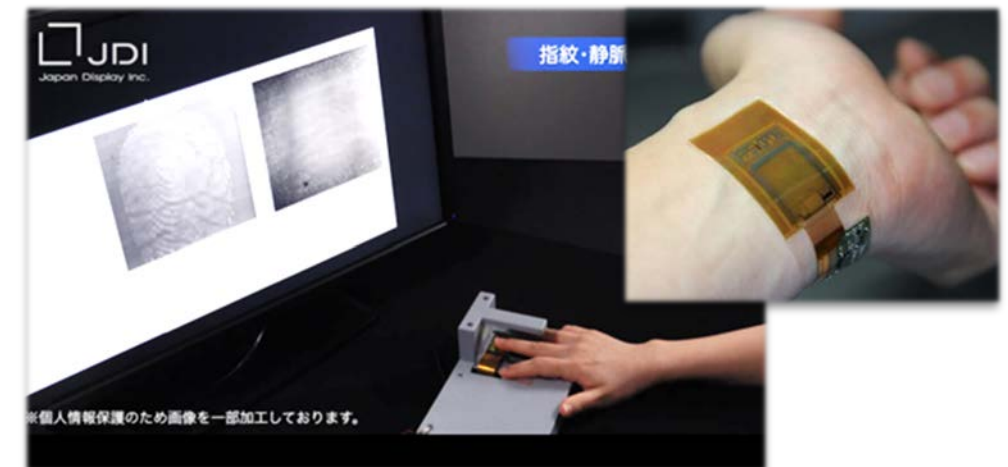
スマホタイプ

全画面
指紋センサ

常時静脈認証可能なウェアラブルセンサ

ウェアラブル生
体認証

国立研究開発法人科学技術振興機構
(JST) 未来社会創造事業探索加速型
(本格研究ACCEL型)(JPMJMI17F1)
の支援を得ています。



様々なコア技術を医療・ヘルスケア等の新事業分野に応用し、新しい製品を創出

2020/9/24 リリース

5.5型ライトフィールドディスプレイ
開発キットを販売開始



5.5型 LFディスプレイ

コンテンツ制作: NHKテクノロジーズ

裸眼で立体感のある表示を可能にする5.5型の
ライトフィールドディスプレイの開発キットを販売。

より自然な立体映像が実現されるため、美術品
などのデジタルアーカイブ、教育・医療分野など、
長時間の視聴も想定されるさまざまな場面での
使用が期待される。

2020/10/15 リリース

サイクリングVR※システムを
ヘルスケア向けに開発・販売開始



※「サイクリングVR」は株式会社クロスデバイスが商標出願中です。

株式会社クロスデバイス(本社：静岡県浜松市、
代表取締役社長：早川 達典)と、3面シアターと
当社の高精細ヘッドマウントディスプレイ

“Virtual Dive100”を使ったサイクリングVRシス
テムを共同開発し、販売を開始。

フィットネス施設などのヘルスケアサービスや観光地
を紹介するロケーションサービス等、既存の設備をそ
のまま活用した導入も可能。

New!!

2020/11/4 リリース

高精度の非接触入力を実現する
ホバーセンサ技術を開発



12.3インチ ホバーセンサ
(プロトタイプ)

使用イメージ

センサ表面から約5cm離れた位置でも精度良く指を
検出できる、透明な外付け型ガラスホバーセンサを開
発。

医療、産業、公共施設等で利用される、自動受付
機、自動券売機、販売機、ATM、エレベーター等
の入力装置に最適な非接触入力を想定した、高精
度ホバーセンサの開発を通して、ハイジェニックな社会
へ貢献。

補足資料

貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書

連結貸借対照表

	(億円)		
	2020年3月	2020年6月	2020年9月
現金及び預金	667	452	498
売掛金	709	382	423
未収入金	481	360	328
在庫	391	471	415
その他	46	73	58
流動資産合計	2,294	1,737	1,721
固定資産合計	1,603	1,570	1,433
資産合計	3,897	3,308	3,154
買掛金	893	600	665
有利子負債	980	975	974
前受金	891	826	815
その他負債	599	536	468
負債合計	3,364	2,936	2,923
純資産合計	534	371	231
自己資本比率	13.1%	10.5%	6.6%

連結キャッシュ・フロー計算書

	(億円)	
	1H-FY19	1H-FY20
税引前当期純利益	▲ 1,030	▲ 355
減価償却費	113	88
運転資金	▲ 157	177
前受金	▲ 103	▲ 75
事業構造改善費用	597	102
その他	16	▲ 73
営業キャッシュフロー	▲ 564	▲ 136
固定資産の取得による支出	▲ 107	▲ 32
その他	▲ 16	▲ 14
投資キャッシュフロー	▲ 123	▲ 46
財務キャッシュフロー	578	13
期末現預金残高	568	494
フリーキャッシュフロー	▲ 671	▲ 168

- (注) 1. 20年9月末の貸借対照表「現金及び預金」と、キャッシュ・フロー計算書「期末現預金残高」との差異：預け金 3 億円
 2. フリーキャッシュフロー = 「営業キャッシュフロー」 + 「固定資産の取得による支出」